



講演を聞きながら新聞を開き、関心がある見出しを追っていく生徒たち

新聞は「生きる基礎」

八学短大・茂木教授 百石高で講演

おいらせ

おいらせ町の百石高校(長内修吾校長)でこのほど、新聞の活用法を探る出前授業が開かれた。講師を務めた八戸学院短期大学の茂木典子教授(ライフデザイン学科長)が、同校普通科2年生112人に向けて「新聞を読むことは社会を生きる基礎体力を付けるこ

と」と魅力を紹介した。

生徒たちは授業当日の新聞1紙を手元に用意。重要な情報がある1面の見出しやトップ記事の前文に注目して、世の中の最新の出来事を把握した。

茂木教授は、気になる新聞記事を切り抜くことも勧めた。「切り抜くためには他の記事と読み比べる必要がある。つまり無意識に新

聞を読み込んでいくということ。これはネットやスマホではできない」と解説。目標や夢に関係する記事を切り抜くことを特に勧め、「記事でスクラップ集を作り、自分だけの参考書にしてください」と語った。夢は保育士という望月柚香さんは、「新聞の気になる記事を早速探し、将来に生かしたい」と参考にしていった。

同校では普通科2年生が週1回、学校設定科目「新聞を読もう」という授業を受けている。

(寺沢龍哉)